

— 次の文章を読んで後の問に答えなさい。なお、*印のあることばには注が付けてある。

I

砂埃すなぼこりをもうもうと舞い上がらせ、地鳴りのような轟音ごうおんを響かせて、列をなしたダンプカーがゆつくりと走る。

海岸に沿って延びる長い一本道だ。向かって左側が海、右側が町。海と道路との間には、かつて松の防風林があった。道路の右側の町は、イチゴの温室栽培きばいが盛んな一方で住宅地としての人気も高く、沿道にはおとしまで、ビールハウスと瀟洒しょうしやな一戸建てがともに整然と並ぶ風景が広がっていた。

「まあ、俺おれもその頃のこと、自分の目で見たわけじゃないんだけどな」

ダンプのハンドルを握る鈴木さんは、話の最後に言い訳するように付け加え、「でも」とつづけた。^①「話を聞くと、やっぱりいい町だったらしいなあ」

助手席の誠は黙ったまま、窓の外を見つめていた。相槌あづちぐらいは打ちたかったが、話を聞いても実感が湧かない。風景があまりにも変わりすぎている。

松林が消えた。ビールハウスも消えた。家々はコンクリートの基礎を残して、すべて消えた。高さ十メートルを超える津波がこの地域を襲い、松林をなぎ倒し、町を呑み込んでしまったのだ。

鈴木さんは誠にちらりと目をやって、苦笑交じりに言った。

②「嘘うそみたいだよなあ」

誠も今度は「はい……」とうなずいていた。

海から吹きつける風をさえぎるものはない。凍えた真冬の風は、かつて町だった荒れ野に吹きすさぶ。津波は春先に襲いかかった。イチゴの出荷で町が浮き立っている時季だった。あれから、もうすぐ丸二年になる。

II

③「フイに車体がはずんだ。シートから尻しりが浮き上がる。窪みにタイヤが落ちてしまったのだ。あわてて窓の上のグリップをつかんだ誠に、鈴木さんは言った。

「兄ちゃん、ダンプのバイト初めてだろ。口をぽーつと開けてたら舌を噛むぞ」

「はい……」

「前のダンプを見てろ。前が揺れたら、三秒後にこつちも揺れる。道が穴ぼこだらけなんだから、そうやって先に準備するんだ」

「舗装ほそうしないんですか？」

「これだけのダンプが毎日毎日、朝から晩まで通るんだから、舗装なんてすぐに剥げる」

全部で何台ぐらい、と訊きかけたとき、タイヤがまた窪みに落ちて、ほんとうに舌を噛みそうになってしまった。

前を走るダンプの荷台には、泥にまみれた屋根瓦が積んである。鈴木さんのダンプはかつて柱や床板だった木材を運ぶ。この道を走るダンプはすべて、津波の被災地の瓦礫を処理施設に運び込んでいるのだ。

たくさんのダンプが駆り出されている。一本道に入る前に誠が目にしたのは、シカイの端から端までダンプが隊列をつくり、それが延々とつづいているという、まるでシルクロードのキャラバンのような光景だった。

他県のナンバーのダンプも多い。ドライバーもそう。車も人手も足りない。「痔に悪いよなあ、こういう道は」とぼやく鈴木さんも、五十歳を過ぎて、遠い県から働きに来ていた。

だが、パワーショベルやクレーンが扱えるひとはもっと重宝される。誠がダンプの助手のアルバイトに応募して面接を受けたときも、現場を取り仕切る主任に「兄ちゃんもハタチなんだったら、さっさとダイトクを取れよ。あとは講習さえ受ければ、たいがい建機は動かせるんだから」と勧められた。

ダイトク——大型特殊免許を持っていれば、働き先はいくらでもある。瓦礫の処理にはあと何年かかるし、新

築のビルや住宅の工事も順番待ちで、^④「どこの建設業者も強気に出ているという評判だった。

「バイトの現場、瓦礫処理と新築工事、どっちがいい？」

誠は少し考えてから、「瓦礫のほうにしてください」と答えた。

「へえ、珍しいなあ」

首をひねった主任は「若いモンは未来を見ろよ、未来を」^⑤とおどけた。

III

誠の父親は、津波の被害が特に大きかった町の出身だった。数百人にのぼった犠牲者の中に、一人暮らしをしていた祖母もいた。幼い頃から誠をかわいがってくれていた、優しいおばあちゃんだった。

祖母の家は、原形をとどめないほど壊されてしまっていた。

だが、数日後、せめて遺品を少しでも持ち出そうと思って家を訪ねると、瓦礫の山の前——かつて門柱があった土台の上に、梅酒の入った広口瓶が置いてあった。ラベルに記された日付は去年の六月のもので、それは間違いなく祖母の字だったのだ。

搜索^{そうさく}をしていた自衛隊や消防のひとが見つけて、^⑥そのまま瓦礫に埋^うもれさせるのが忍^{しの}びなく、わざわざ置いてくれたのだろう。

瓶は汚泥^{おでい}にまみれていて、蓋^{ふた}のわずかな隙間^{すきま}から入り込んだのか、梅酒の表面にはうっすらと油の膜^{まく}も張^はっていた。とても飲めるような代物^{しろもの}ではなかったが、父親はそれを大事そうにわが家に持ち帰り、いまでも台所の床下^どシユウノウウ庫^かの片隅^{かたすみ}にしまっている。

帰りぎわ、誠は祖母の家の前にたたずみ、瓦礫とあらためて向き合った。テレビのニュースではわかりづらいが、間近に見る瓦礫にはさまざまな色がある。服の色、食器の色、家電製品の色、布団^{ふとん}の色、カーテンの色、本の色、壁

紙の色……。

誠は瓦礫に手を合わせ、目を閉じて、頭^{こぶ}をA^⑦。そうしようと思^{おも}ひついたわけではなく、自然に体が動いた。おばあちゃんも「ありがとうね」と笑^{わら}ってくれているはずだ、と思^{おも}った。いまでも思^{おも}っている。

IV

処理施設に近づくにつれて、車の流れが滞^{とど}つてきた。のろのろと進^{すす}んではすぐに停^とまり、しばらく待つて、また少しだけ進む。

鈴木さんは大きなあくびをして、「あそこを見てみる」とフロントガラスを指差した。「こっち側の斜め前、ずーつと先のほうだ」

「あそこ」と言われても、枯れ草に覆^{おお}われた荒れ野は哀しいほど広々としていて、どこにどうまなざしを据^すえればいいのかわからない。

「葦^{あし}が茂^もっているところ、あそこだ、背が高い草がまとまって生^はえてるだろ」

「ああ、はい……」

遠くの方に、ひととき丈^{たけ}のある草むらが見える。そこに大きな水たまりがあるのだと鈴木さんは言った。窪^{くぼ}んだ土地に雨水や下水が溜^たまり、津波から二年がかりで、ちよつとした干潟^{ひがた}か湿原^{しつげん}のようなイッ^いツ^つカク^{かく}ができたのだ。

「渡り鳥が来てるんだ、そこに」

雁^{かり}や鴨^{かも}をよく見かける。ダンブはいつもこのあたりで渋滞^{じゅうたい}するので、自然と鳥の姿を探すようになっていた。さつきも雁の群れが降り立^たっていたらしい。

「野鳥の観察、好きなんですか？」

「そういうわけでもないんだけどな」

瓦礫を運ぶ仕事を始めて、思い出したことがある、という。古いコマースヤル——中学生の頃にオンエアされていた、ウイスキーのCMだった。

「雁風呂^{がんぶろ}っていうのを、それで知ったんだ」

雁は木の枝をくわえて海を渡ってくるという言い伝えが、青森県の津軽地方にある。渡りの途中で休むときには、海に浮かべたその枝にとまるのだ。陸地が近づくと、用済みになった枝を海岸に落とし、春になって北の国に帰るときには、またそれを口にくわえて海を渡る。だが、雁が帰ってしまったあとも、海岸に残された枝がある。冬の間に

B 枝なのだ。津軽のひとたちは、その枝を集めて風呂^{ふろ}を焚^たき、死んだ雁を供養^{くやう}したのだという。

「いろいろ考えてたよなあ、昔の日本人は」

鈴木さんはあきれたように笑ったが、「でも、まあ」とつづけた声には、笑いは溶けていなかった。

「俺たちが毎日毎日運んでる瓦礫は、死んだ雁の木の枝と似てるんじゃないかって、ときどき思うんだよなあ」

「はい……」

「わかるか？」

「……なんとなく、ですけど」

「この施設は一日に五百トン以上も燃やせるらしい。それでも追いつかないぐらいたくさん瓦礫が残ってるんだから、たくさん処理できるのはいいことだ、ほんとにな、それは絶対にいいことなんだよ」

勢い込んで言って、ダンプを少しだけ前に走らせ、すぐに停めて、「いいことなんだけどなあ……」と、長く尾を引いた息をつく。

「どうせ燃やすんだったら、それで風呂^{ふろ}ぐらい沸^{わか}かしたっていいのにな」

冗談^{じやうたん}とも本気ともつかずに言ったとき、葦^{あし}の茂みから、数羽の雁が飛び立った。雁は空中できれいにそろった列をつくり、さらに高く飛んでいく。

それをじつと見送った鈴木さんは、目を空に向けたまま、つぶやくように言った。

「瓦礫^{がら}つてのは、大きく見れば、あれ、ぜんぶ**C**なんだよなあ……」

誠は黙ってうなずいた。声に出さなかったので気づいてもらえなかったかもしれない。かまわない。誠^{マコト}はいま、鈴木さんではなく自分自身にうなずいて応^{こた}えたのだ。

前のダンプが動きます。鈴木さんも顔を戻すと、ダンプを発進させた。のろのろとしたスピードではあっても、さつきまでとは違い、すぐに停まってしまうような気配はない。

「ここから先は意外と流れるんだ、いつもな」

少しずつ加速する。前のダンプが右に傾いて大きく揺れる。きっかり三秒後に、鈴木さんのダンプも揺れた。

(重松清『きみの町で』による)

*瀟洒^{しょうさ}：しゃれている様子。すっきりとしてあか抜けている様子。

建機^{けんき}：建設業で用いられる重機を意味する建設機械の略称。

問一——線部①で、鈴木さんはどのような気持ちからこのように話したのだろうか。その説明として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 直接体験していない話であり、少しでも誠に関心を持ってもらいたいと思ったから。
- イ 被災者でもある誠のことを思い、東北の美しさに共感していると伝えたかったから。
- ウ 遠くの県から働きに来たに過ぎないが、自分も被災者の一人だと実感していたから。
- エ 自分は町の人間ではないが、働いている中で町に対する思いが強くなっていったから。

問二 — 線部②について。鈴木さんは何を「嘘みたいだよなあ」と感じているのか。簡潔に答えなさい。

問三 — 線部③「浮き立っている」のことばの意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ときめいている イ 活気に満ちている ウ 気がはやっている エ きわ立っている

問四 — 線部④とはどのようなことを意味しているか。その説明として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 働き先を求めて他県から来ている人が多いので、つらい仕事を平気で押しつけてくること。
 イ 大型特殊免許を持っている人は働き先がたくさんあるので、ダンプの仕事はしないこと。
 ウ 建設業者を必要とする仕事がたくさんあるので、うまみのある仕事しか業者が受けないこと。
 エ 復興に役に立っているという自信があり、建設業者は誇りを持って仕事をしていること。

問五 — 線部⑤について。ここでの「未来を見」とはどうすることか。わかりやすく答えなさい。

問六 — 線部⑥について説明した次の文の i・ii を補うのにふさわしいことばを、それぞれ本文中のことばを用いて答えなさい。

・梅酒として i(5字程度) 物ではなく瓦礫に近いと言えるが、ii(10字程度) から、最近のものであるこ

とも、その持ち主もわかり、手作りの品として家族にとって大切なものとなるかもしれないと、見つけた人が考えたのだろう。

問七 A を補うのにふさわしいことばを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 下げた イ 垂れた ウ 落とした エ 押さえた

問八 B を補うのにふさわしいことばを考えて答えなさい。

問九 — 線部⑦の表現から、鈴木さんのどのような気持ちがうかがえるか。次の中から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 照れ隠し イ 怒り ウ 真剣さ エ あきらめ

問十 — 線部⑧について。鈴木さんはどのような気持ちでこう言ったのか。簡潔に答えなさい。

問十一 C を補うのにふさわしい漢字二字のことばを本文中から探し、抜き出して答えなさい。

問十二 — 線部⑨で、誠がこのようにしたのはなぜか。わかりやすく説明しなさい。

問十三 Ⅱ 線部 a、d のカタカナを漢字に直しなさい。

◆ 二の問題は次のページから始まります。

14. 新聞
二 次の文章は映画プロデューサーである筆者が、ふたりの映画監督について述べたものである。よく読んで、後の問に答えなさい。

彼は資料を見ながら絵を描く人を信用しません。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮 㿯 㿰 㿱 㿲 㿳 㿴 㿵 㿶 㿷 㿸 㿹 㿺 㿻 㿼 㿽 㿾 㿿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆

彼はおもしろがって、ときどきこんなクイズをやります。道を歩いていておもしろい家があったりするじゃないですか、そうすると、「あの家の間取りどうなっていると思う?」。もともと、『ハウル』では、「城」を作ってしまったあと、彼は間取りに苦しむんですけどね。

◇ ◇ ◇

プロデューサー高畑のすごさはそれとして、いったん自分が監督となると、ほんとうにプロデューサー泣かせです。完全主義者ぶりは徹底していました。ぼくが初めてプロデューサーとしてクレジットされたのは、九一年『おもひでぼろぼろ』なんです、このときもいやというほど実感させられました。

舞台は山形で、紅花摘みがテーマです。高畑さんは「どうやって作っているか」に興味がある人ですから、紅花づくりの実際の作業を見たい。それで、まだ何もできてないうちに、シナリオハンティングをしたいと言う。④ しょうがないので二人で山形へ行った。現地で観光課に農家を紹介してもらって、いろいろ聞いたんですよ。ビデオを撮ったりしながら。

⑤ ここが高畑さんですが、彼は山形に行っているあいだに、演助(演出助手)に命じて、日本で発売されてる紅花の本を全部集めさせていました。戻ってからこの紅花の本を一生懸命読む。そのうちに紅花について書き込んだ大学ノートが一冊、完成します。「紅花はこうして作る」という、紅花研究本ができてしまうんです。

山形で取材に行ったのは三軒ありました。高畑さんに言わせると、その三軒とは違う紅花の作業の仕方があるらしい。米沢のほうに紅花の達人がいることがわかり、高畑さん「この人は凄(すご)いんじゃないか、会いに行きたい」。もちろん映画を作ってる途中ですよ。さすがに冗談じゃない。自分が行くというのを必死に止めて、かわりに演助の子たちにその農家に行ってもらいました。そうしたらその達人が高畑さんの書いたものを読んで、「これはたしかに、いちばん正しいやり方だ」と。

紅花の摘み方から作業の仕方まで、全部、ちゃんと映画のなかに出てきます。これは高畑さんの研究セリカです。

高畑さんはリアリズムに徹していて、『ハイジ』に出てくるパンですら、全部本物を調べ抜いてやっています。高畑さんと宮さんとはここが違います。宮さんのほうは「らしく」見せるのがトクイで、『もののけ姫』のタタラ場だって、それらしく描いてますが、ウソもけっこう入っている(笑)。宮さんに言わせれば、パクさんはああいうのが趣味なんだから、別に偉いことでも何でもない、おれが飛行機が好きなのと同じなんだって言ってますけどね。ともあれ、ワンシーンのためにそこまで調査する。楽しいんだと思いますよ。付き合う方はしばしば大変ですが、付き合っているとおもしろくなってくるのもたしかです。

『火垂るの墓』でも、空襲シーンでB29の飛んでくる方向が気になる。「どこから飛んできたか?」。当時の記録を全部、調べるんです。主人公の清太の家から見上げたとき、どっちになるか、それを問題にする。あの映画をご覧になった方でもおそらくお気づきじゃないと思いますが、じつはそうした方位・方向など、ちゃんと正確なんです。これは少し違う話ですが、高畑さんはつねに具体的、現実的で、絵を描くときの指示も同じです。抽象的なことはいっさい言わない。「ここはこういう状況だからこういう気分だ」などとは絶対言わない。「目をヤマ形にしてください、ここはマルにしてください」、そういう指示の仕方です。「ハイジの目を三角にしてください」とかね。それで得られる効果を知ってるわけです。だから絵描きはものすごくわかりやすい。

(鈴木敏夫『仕事道楽 スタジオジブリの現場』による。ただし、省略した部分がある。)

宮さん：宮崎駿のこと。アニメーション作家。映画監督。代表作に「となりのトトロ」「千と千尋の神隠し」などがある。

高畑さん：高畑勲のこと。映画監督。プロデューサー。代表作に「アルプスの少女ハイジ」「おもひでぼろぼろ」などがある。パクさんとも呼ばれている。

シナリオハンティング：シナリオを書いたための取材をすること。

問一 〓 線部 a d のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 〓 線部①の意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 真剣に イ 貧しくても ウ 仮にも エ 何がなんでも オ 無謀なことに

問三 文中の を補うのに最もふさわしい語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 印象 イ 作業 ウ 本物 エ 記録 オ 言葉

問四 〓 線部②について。「宮さん」はどういうものの見方をしているのか。最もくわしく説明している一文を本文中から見つけ、初めの五字を抜き出して答えなさい。

問五 〓 線部③について。ここでの「オリジナル」とはどういうことか。わかりやすく説明しなさい。

問六 〓 線部④について。このことから筆者のどのような姿がうかがえるか。次の中から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 言い出したら言うことをきかない高畑さんを批判的に見つけている。

イ 思いつきで行動ばかりしている高畑さんにあきれかえっている。

ウ 映画の制作の進行を気にしつつも高畑さんの情熱を尊重している。

エ 高畑さんの探求心を満たしてあげるために精いっぱい応援している。

問七 〓 線部⑤について。「こ」とは「高畑さん」のどのような様子を指していますか。次の説明の にあてはまる最もふさわしいことばを、これより前の本文中から抜き出して答えなさい。

高畑さんの 。

問八 〓 線部に関連して。「高畑さん」と「宮さん」のものを描く際の姿勢の、A「違う」点と、B「共通する」点を、それぞれ簡潔にまとめなさい。

〔以上で問題は終わります。〕

